

## 業界指定講習テキスト「トラブルシューティング講座」正誤表

### 配布テキスト正誤表

テキスト	ページ	誤	正
トラブル	P15、P16	fixatUn	fixation
トラブル	P60 表 3	AS	別掲参照
トラブル	P60 表 3	VS	別掲参照
トラブル	P63	4 ソーリン・グループ (Sorin Group)	4 マイクロポート (MicroPort)
トラブル	P63	表 6 ソーリン・グループ	表 6 マイクロポート社製
トラブル	P79	表 6 Acceleration 作動様式	別掲参照
トラブル	P81 右	年間約 3500 症例前後	年間約 3,500 症例前後
トラブル	P82 左	いわゆる心室頻拍及び心室細動	いわゆる VT 及び VF
トラブル	P82 右	心室頻拍や心室細動等	VT や VF 等
トラブル	P82 左	除細動コイル一体型心室リード	除細動コイル一体型心室リード (ICD リード)
トラブル	P83 左	心室頻拍及び心室細動に対する	VT 及び VF に対する
トラブル	P83 右	電流リークが生ずることがあり、必要なエネルギーまで	電流リークが生ずることがあるため、必要なエネルギーを
トラブル	P91 左	平均インターバル (IA)	平均インターバル (AI)
トラブル	P91 右	図 3-4 表中、IA	AI
トラブル	P94 左	1) 除細動ショック (DefibrSlatUn Shock)	1) 除細動ショック (Defibrillation Shock)
トラブル	P94 左	2) カルディオバージョンショック (CardUversUn Shock)	2) カルディオバージョンショック (Cardioversion Shock)
トラブル	P96 左	(4) チルト (TSt)	(4) チルト (Tilt)
トラブル	P101 左	4) 受攻性上限試験 (Upper Limit VulnerabSity)	4) 受攻性上限試験 (Upper Limit of Vulnerability : ULV)
トラブル	P103 右	(1) プログラム刺激 (Programmed Electrical	(1) プログラム刺激 (Programmed Electrical

		StimulatUn)	Stimulation : PES)
トラブル	P105 右	オーバーセンシングは 2.3～3.9% <sup>1)</sup> )	オーバーセンシングは 2.3～3.9% <sup>1)</sup> )
トラブル	P141 右	心室細動や心室頻拍	VT や VF
トラブル	P141 右	年間 1100 例	年間 1,100 例
トラブル	P141 右	年間 3000 例	年間 3,000 例
トラブル	P142 左	基本的な、設定モードや動作は	基本的な設定モードや作動は
トラブル	P149 左	横隔神経刺激 (PNS)	横隔神経刺激 (PNS ; Phrenic Nerve Stimulation)
トラブル	P149 左	横隔神経刺激 (PNS ; Phrenic Nerve Stimulation)	PNS
トラブル	P142	横隔神経刺激 (*複数あり)	PNS
トラブル	P150 左	モードスイッチ動作中	モードスイッチ作動中
トラブル	P151 左	横隔神経刺激	PNS
トラブル	P151	心室頻拍や心室細動 (*多数あり)	VT や VF
トラブル	P152 左	心室細動検出基準	VF 検出基準
トラブル	P151 右	また、従来の ATP は右心室からの・・・未然に発見するものがある(図 4-6)	重複している
トラブル	P153-157	ILR	ICM (Implantable Cardiac Monitor)
トラブル	P154 右	失神の診断・治療ガイドライン (2012 年改定版)	不整脈非薬物治療ガイドライン (2018 年改訂版)
トラブル	P154	表 3 ILR の植込み適応	別掲参照
トラブル	P322 上	ATP(Burst)が実施	ATP(Burst)を実施
トラブル	P325 上	心室レートが速い	心室レートが速く
トラブル	P339 ~ P350	臨床 ICD 編 III (ページ端のタブ部分)	臨床 CRT 編

## 別 掲

P60. 表 3 アボットメディカル社製ペースメーカーの代表的マーカ

マーカ表示	意味
AP	Atrial Pacing
AS	Atrial Sensing
AS(旧マーカ)	Atrial Refractory Sensing
AR(新マーカ)	Atrial Refractory Sensing
VP	Ventricular Pacing
VS	Ventricular Sensing
VS(旧マーカ)	Ventricular Refractory Sensing (新しいデバイスでは心房イベント後はすべて絶対不応期のため表示なし)
AMS	Auto Mode Switch

P79 表 6 各メーカーの機能名と作動様式

機能名	作動様式
Rate Drop Response (Medtronic)	頸動脈洞症候群(CSS)等による急激なレートの低下を検出後、早いレートにて一定時間ペーシングを行う
Advanced Hysteresis (Abbott Medical)	頸動脈洞症候群(CSS)等による急激なレートの低下によりペーシングが行われると設定の早いレートにて一定時間ペーシングを行う
Sudden Brady Response (Boston Scientific)	頸動脈洞症候群(CSS)等による急激なレートの低下を検出後、早いレートにて一定時間ペーシングを行う
Acceleration (Microport)	頸動脈洞症候群(CSS)等による急激なレートの低下を検出後、早いレートにて一定サイクルの間ペーシングを行う

P154 表3 ILR の植込み適応

クラス I	ハイリスク所見はないが、心原性以外の原因が否定的で、デバイスの電池寿命内に再発が予想される原因不明の再発性失神患者の初期段階での評価
クラス I	ハイリスク所見を有するが包括的な評価でも失神原因を特定できず、あるいは特定の治療法を決定できなかった場合
クラス I	潜因性脳梗塞と診断された患者において、長時間心電図検査でも原因が同定されず、原因として心房細動の検出を目的とする場合
クラス II a	頻回に再発あるいは外傷を伴う失神歴がある反射性（神経調節性）失神の疑いを含む患者で、徐脈に対するペースメーカ治療が考慮される場合